

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	琉球大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウキュウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	観光産業科学部観光科学科
	担当教職員名・役職	平野典男・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	16
	受入企業等数	10
	受入企業等名	日本トランスオーシャン航空、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県庁、琉球海運、ホテル日航大阪、ジェイシーシー(百名伽藍)、琉球放送、JTB沖縄、豊見城市観光協会、久米島町観光協会
	インターンシップの分類	8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	従来の職場体験型のものに加え、本年度から日本トランスオーシャン航空様と包括連携協定を結び、課題解決型インターンシップを実施している。具体的には、①機内販売品の企画、②WEBコンテンツ作成、③滞在型旅行商品造成である。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次・4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	観光科学科では学科特色科目群を設置し、その中の1科目としてインターンシップを開講している。実際の職場体験や課題解決を通じ、高度な専門職業人に必須の実務的な観光マネジメント能力の養成に向けて、理論的アプローチと実践的アプローチの両立を目指している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中もしくはその前後に、教員が企業等に赴き、企業担当者・学生と面談している。また、課題解決型インターンシップでは期間中の調査や打ち合わせ等に行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの心構え、インターンシップの流れ、企業との覚書・守秘義務等契約事項等についての説明、評価方法、報告書の作成方法、マナー、名刺作成、写真撮影、履歴書の作成指導、企業研究などを行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	報告書・礼状作成・報告会の実施(プレゼンテーション)等を行わせている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当教員1名ですべての企業を期間中に回ることはできないが、実習期間中に学生にはインターンシップ日誌の記載、企業担当者には行動評価をしてもらい確認を行っている。課題解決型の場合は、毎回の企業との打ち合わせには学生に同行し、企業担当者とのすり合わせを行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している

④	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	出勤状況、挨拶・応答・態度・身だしなみ等、積極性・自発性等、関心度・理解度等、総合的視点から、の5項目について3段階もしくは4段階で評価する仕組みにしており、この評価基準については企業・学生双方に周知している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間10日以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として夏季休暇中の連続する2週間と定めている。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	課題解決型のインターンシップでは、どのようなテーマを学生たちに課題として与えるか、地域貢献の視点、企業経営の視点、人材育成の視点等から入念に事前の打ち合わせを行っているほか、実施期間中も細やかな連絡をとり、学生たちに対する指導の在り方について相談しながら進めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SyllabusSearchStart.aspx?lct_year=2017&lct_cd=901065001&je_cd=1 http://ryudaicoc.jim.u-ryukyu.ac.jp/service/overview/2057.php
問い合わせ先	大学等名	琉球大学
	担当部署名	観光産業科学部観光科学科
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	平野典男
	電話番号	098-895-8844
	メールアドレス	hirano@tm.u-ryukyu.ac.jp